

令和6年度地域版ぎふ木育プログラム開発事業 成果報告書

1. プログラム概要

事業名称	森と和紙のアート体験プログラム開発事業
題材とする地域	中濃 美濃市
事業概要 (200字程度)	美濃地域の伝統・文化の中心である産業「美濃和紙」を中心に置いた、木育(道具)×和紙(伝統産業)×山歩き(自然)を組み合わせた「ミノガミアート」事業としてプログラムを開発。 和紙についてスタッフが職人から学び、市内のNPO法人に依頼して岐阜県材のオリジナル道具を製作、山歩きに詳しく普段から子どもを中心とした居場所づくりに取り組む等法人がガイドツアーをした。

2. 提案者

氏名または名称	星野 慧
住所	
(法人・団体の場合) 代表者の職・氏名	特定非営利活動法人 MINOCOOLJAPAN 代表理事 小椋唯
連絡先電話番号	
連絡先メールアドレス	

3. プログラム 企画書

① 仮タイトル	森と和紙のアート体験プログラム
② 設定時間	90分
③ねらい	・ 地域の伝統と結びつける 岐阜県美濃市の伝統と深く結びついています。手作り和紙の伝統技術を活かし、地域の文化との調和を図ります。伝統文化を身近に感じてもらえるように「森と和紙の入り口」となるプログラムです。 ・ 木育との連携を強化する このプログラムは「ぎふ木育」との連携を通じて、森林との関わりを深める機会を提供します。和紙の原料となる植物を知る機会や、森を散歩して拾ったものを和紙に漉き込みアートすることで、身近に感じてもらい、自然への理解、美濃和紙の価値への理解が深まります。 ・ 地域振興と経済活性化 地域の特産品である和紙を活用し、地域経済の活性化に貢献します。地域の観光資源としても位置付け、観光客や参加者に岐阜の魅力を伝えます。
③ 主な対象者	3才以上～大人（小学生以下は親子参加）
④ 参加人数	10名定員（道具追加と会場拡大とスタッフ増員で20名程度）
⑤ プログラム進行	<90分コース> ○導入（15分） ・挨拶／本日の流れ紹介 ・美濃和紙に関する映像視聴 ・団体の想いを伝える （目的・材料調達の工程・関連する人の紹介） ○展開（70分） <プログラム1>（30分） ・小倉公園をガイドと一緒に散策する →原料となる植物の観察と落ちている物を拾う、 美濃和紙が栄えた環境を知る（川、人など） <プログラム2>（40分） ・和紙漉き体験をする ・アートをする（拾った植物、自然物やその他の素材を選ぶ） ・作ったものを乾かす

	○まとめ・クロージング（５分） ・感想シェア ・作ったものを持ち帰る
⑥ 必要用具等	紙漉きに関する道具と原料（化学ねべし、コウゾを加工したもの） アートができる素材 映像を観る機材
⑧想定する参加費	3,000 円 家族で参加の場合、割引きをするまたは１つの木枠（ハガキか名刺）につき３０００円で設定し、木枠ごとにアートを楽しむようにする。

※県からの委託事業によって試行・開発した結果を踏まえて記述すること。

※補足説明する画像、図面、その他資料があれば添付すること。

4. 審査項目に関する事項（試行・開発後）

（１）有効性

◆伝統産業：美濃和紙

本事業の目的には、「次世代に繋げ、根付かせるためにその地域ならではの形での木育が必要。」と記されているとおり、地域に根付くプログラムを開発するためには、その地域の文化の中心にある題材を活用することが大切だと考え、今回は美濃地域の伝統・文化の中心である産業「美濃和紙(伝統産業)」と連携し、プログラムを開発した。

◆技術✕知識：地域の連携によるプログラム開発

美濃市では、森林文化アカデミーや、森林総合教育センター（morinos）などの取り組みも行われ、森林教育が活発に行われている。

森林文化アカデミーで学んだ知識、木育推進員等として活動する中でつながった団体や個人（NPO 法人グリーンウッドワーク協会、美濃市地域おこし協力隊、和紙漉き職人）と連携してお互いの技術と知識を掛け合わせた、地域ならではの形での木育プログラム開発をした。

◆拠点の立地：歴史あるまちと自然が徒歩圏内

本プログラムを実施する拠点は、美濃市内の中心部にあるうだつの街並みから徒歩圏内、小倉公園の整備された森で安全面も配慮し、幼児も程よく散歩できるコースを選んだ。案内人や他の参加者が共に散歩したり、アートするものを拾う目的で森を歩くことで、自然への理解を深めた。

アンケートの中に「和紙の歴史を学びたい」との声があったので、うだつの街並み案内歴史コースも検討していきたい。

※当プログラムにより、地域の自然、伝統、森や木の文化とどのようにつなげることができるかについて説明すること。

（２）新たな着眼点、アイデア、工夫、独創性

◆地域に愛着と誇りを！

美濃和紙の伝統を継承していく後継者は、最近では移住者が中心となり活躍している。地元の子供もが、「後継者になりたい！」と思うには子どものうちに和紙を漉く体験を試みることで感じる。本事業で開発するアート要素がある和紙漉き、植物や自然を歩

きながら拾ったり観察することで、地元の子どもが地域に愛着と誇りを持って、紙漉きに興味持ってくれるような和紙と森への入口となるようにプログラムを開発した。

◆和紙漉き体験のニーズと展望

現状、美濃市内で和紙漉き体験ができる施設は「和紙の里会館」のみである。和紙の里会館は大人数でも体験を受け入れることができ、和紙づくりの工程も展示されている。しかし、美濃市の中心部からは車で 15 分ほどと気軽にいける場所にはなく、体験内容に自由度は少ない。

和紙が販売されているうだつが上がる街並みの店舗や、美濃市観光協会、美濃市役所へヒアリングしたところ、観光客からは「うだつの上がる街並みから歩いていける範囲で和紙漉き体験をしたい」というニーズがあることが分かった。本事業で開発したプログラムの継続性を担保するためには一定の収入(利益)も必要になるため、観光客に向けても今後今回開発したプログラムを軸にニーズに合ったコースを展開していきたい。

また、当 NPO 法人は多文化共生社会を目指して活動している。海外との学校交流もプログラムを通して美濃市の子ども達に文化に触れる機会も提供していきたい。

◆専門を生かした市内プレーヤーの連携

当プログラムはどこでもできるように道具を揃え、独自に和紙漉きの木枠を開発し道具や原料も美濃で作る。道具の製作はグリーンウッドワーク協会に依頼、和紙漉き体験の監修やコウゾの原料を和紙漉き職人に依頼。

体験実施するスタッフは木育推進員・市内の歴史や元保育士の子どもの対応に慣れた地域おこし協力隊・自然体験活動従事者といったメンバーで構成。

市内の連携で開発していくため、プログラムの改善や美濃和紙を軸に置いた今後の体験開発への期待もできる。

※当プログラムに盛り込んだ新たな着眼点。アイデア、工夫、独創的な点などについて説明すること。

(3) 適合性

ステップ 1～2 の「ふれあう、親しむ」「関心をもつ、気づく」

→美濃和紙に関する映像視聴をすることで、木（コウゾ、ミツマタ）が原料であることに気づき、親しむ。

ステップ 3～4 「調べる、理解する」「考える、判断する」

→材料調達の工程・関連する人の紹介、小倉公園の森をガイドと一緒に散策することで理解を深める。

和紙を漉く、自分が拾った植物でアートをすることで表現する楽しさや、感覚、販売されている和紙の価値、木から紙になるまでの工程を知り、考えたり理解したりする。

ぎふ木育30年ビジョンに示すステップ3を意識しています。主にこれからの未来を担っていく小中高校の生徒を対象として想定しています。次のステップに繋げる工夫として、来年は材料であるねべしや楮を植えて美濃で育て、畑を案内したり一緒に作業したりするプログラムも季節によって展開します。また、漉いた和紙をランタンにできるような木材キット製作も来年度に検討中です。和紙漉き職人の担い手、木を使ったものづくりへの関心や重要性について考えてもらえるようにしていきたいです。

※当プログラムが、「ぎふ木育30年ビジョン」に示す1～6のどのステップを意識しているか、また主にどのような世代や属性を対象として想定しているかについて説明すること。